

CADの一貫性能に関心

BIM対応も強化

ネットイーグル

ネットイーグル(福岡市、祖父江久好社長)は5月30、31の両日、東京ビッグサイトで開催された非住宅木造建築フェア2024に出展し、同社CADの非住宅プレカット対応についてPRした。東京の出展は昨年に続く2回目で、ゼネコン、設計事務所、プレカット会社、行政関係など132社が訪れた。

同社は、非住宅中大発の構造計算システム型木造建築向けプレカットCADとして「XF15」と2×4工法向けの「XF24」、連携システムのCLTICAD、羽柄/合板CAD、BIMインターフェイス、構造計算システムなどを持つ。構造設計から構造計算、積算、加工まで一貫対応できるのが特徴で、一貫システムのため段階ごとに再入力が必要がなく、プレカットまで効率的にデータが流れる。特に自社開

「NSC15」は2000平方メートル以上の物件にも面積制限なく対応でき、7月からは新開発の「IFCデータ出力システム」でBIMにも直接データ出力できるようになる。

従来、BIM対応では、オートデスクの「Revit(レビット)」で読み込むためのインターフェースを開発していたが、ほかのBIM-CADへの対応にもニーズが高まったことから、中間フ



アイルなしで直接出力できる機能を開発した。出展ブースへの来場者は既存客が多かったが、新規客も設計事務所を中心51件あった。松井良紀営業本部長は「既存客は非住宅

に力を入れたい会社が情報収集に訪れた。当社CADのユーザーでないプレカット会社への訪問もあった。新規客はゼネコンより設計事務所が多く、CADの一貫性能に興味を持った様子。手応えのあったゼネコンや設計事務所重点的に働き掛け、プレカット会社に仕事を仕上げたい」と話した。

ブースでは新入社員を含む7人の営業担当者が対応した